知っているようで知らない マスク・手洗いのプチ情報

世界的に市民権をえた「マスク」

今まで奇異な目で見られていた日本人の「マスク」。
しかし、新型コロナウイルスの感染症予防として、
ドイツ全州で公共機関を利用するときの着用が義務化されるなど、
世界中でマスクが使用されるようになりました。

色・素材

従来、マスクといえば清潔をイメージする「白」でしたが、コロナ禍でマスク不足が深刻な社会問題となると、マスクが手作りされるように。素材もガーゼ・不織布から、身近にあるハンカチや手ぬぐい、着物の端切れなどを使い、色もカラフルなものから花柄などおしゃれになりました。

では、日本のマスクはずっと「白」だったかというと、マスク１号は江戸時代末期、島根県の石見銀山で使用されていた防塵マスク（金属の骨組みに絹の布を張りつけ、柿渋を塗布）で、色は「黒」でした。その後、大正時代には黒色の工場マスクが登場。

戦後、白色のガーゼ素材が使用され、1990年代から使い捨てのできる不織布が主流となりました。

種類

1. **家庭用**：風邪や花粉対策、防寒、保湿などに使用される。
2. **医療用**：医療現場もしくは医療用に使用される感染防止マスク。
3. **産業用**：主に工場などで作業時の防塵対策に使用される。

形状

1. **平　　型**：昔ながらの四角い形状のガーゼマスクで、高い保湿性と保温性にすぐれる。「アベノマスク」もこの形。
2. **プリーツ型**：前面にプリーツ加工が施され、目の下から顎までおおい、口の動きに対応。
3. **立　体　型**：顔の形に合わせ、隙間なくピッタリフィットし、息苦しさや口紅の色移りが少ない。

日本のマスクの歴史

医療の普及していない時代に自己防衛手段として使用されて以来、風邪やインフルエンザを予防するため、マスク姿が見られるように。

●マスク登場

1918（大正７）～1920（大正９）年、スペイン風邪が世界的に大流行し、世界の人口の約４分の１にあたる５億人が感染。世界で２千万人～４千万人、日本でも約39万人が亡くなりました。

多くの欧米諸国が、感染予防のため市民に公衆でのマスク着用を義務付け、日本政府も国民にマスクを紹介しました。

●国が着用を推奨

1922（大正11）年、内務省衛生局が流感性感冒の予防策としてマスクの着用を推奨したことで、国民に広まりました。当時、感染予防を呼びかけるポスターには、〝恐るべし「ハヤリカゼ」の「バイキン」！ マスクをかけぬ命知らず！〟と書かれていましたが、マスクの価格は現在の3千円相当と高額で、何度も洗いながら使用していました。

1940年代には「感染者のマスク着用はマナー」と言われるまでに定着しました。

●マスクの用途拡大

その後、予防にはワクチン接種が主流となり、1980年代までにマスクは停滞しましたが、1990年以降は「花粉症」の出現により再び浮上。マスクの用途は花粉症、インフルエンザ、PM2.5対策にと活用範囲を拡大。さらに、「空気の乾燥からのどを守る」「すっぴんを隠す」など美容目的ツールへと進化を遂げました。

一方、欧米諸国では、「マスクは病気の人がするもの」「顔が見えず、怖くて不気味」とマスク着用が姿を消していきました。

正しい手洗いのすすめ

SNSで正しい手洗いの動画が配信され、話題となっています。
日本列島クリーン大作戦の協賛としてご協力いただいている
日本石鹸洗剤工業会（JSDA）の情報紙に掲載されていた
正しい手洗い情報をご紹介します。

手洗いによるウイルス除去効果は？

感染症の予防の基本は**丁寧に手をあらうことで、手についているウイルスの数を減らすことができ、粘膜などからの侵入を防ぐ**ことができます。

ウイルスには、エンベロープと呼ばれる脂質の被膜があるものとないものがあります。
インフルエンザウイルスやコロナウイルスは、エンベロープがある種類で、石けんやエタノールなどで壊れるので、不活化（感染性を失わせること）されやすいことが知られています。

石けんを泡立てる理由は？

石けんの泡は、たくさんの空気の粒（気泡）からできています。表面には、「界面活性剤」の分子が規則的にたくさん並んでいます。気泡と気泡の隙間は水と油の通り道になっていて、これを〝プラトーボーダー〟と呼び、**菌や汚れを吸い上げる効果が期待できます。**

よく泡立てると、この通り道がたくさんできます。

固形石けんやハンドソープなど、どのタイプの洗浄剤も、**よく泡立ててから使いましょう。**もともと泡で出てくるタイプの洗浄剤を利用するのもよいでしょう。

正しい手の洗い方のポイント

大切なのは、こまめに洗うこと。

❶手のひら
❷手の甲
❸親指
❹指と指のあいだ
❺指先、爪のあいだ
❻手首

❶～❻を意識しながら、30秒以上かけて丁寧に洗うことです。
何も意識せずに洗うときよりも、洗い残しが少なくできます。

手作りマスクをプレゼント

「小さな親切」実行章より

コロナに負けるな

石川亜弓さん（41）、末娘の**礼理**（らいり）さん（9）親子は、礼理さんを含め４人の子どもたちが通った紫波町立古館保育所（岩手県）に手作りマスク85枚を贈りました。

裁縫経験の少ない亜弓さんですが、試行錯誤を繰り返し、何度も洗うことのできるガーゼマスクを完成させました。学校が休校となった礼理さんが、マスクのゴム紐つけなどお手伝い。

園児たちは届けられた様々な柄の中から、お気に入りをそれぞれ選び、「ウサギの柄がかわいい」「マスクをしてお出かけしたい」と大喜びでした。

日本の皆さんに恩返し

洋服リフォーム店を営む**前田冰冰**（ぴんぴん）さん（静岡市・39）は、中国出身。日本人に恩返しをしたいと、生地を持ち込めば無料でマスクを仕立てるサービスを始めました。新型コロナウイルスは中国から拡大したことから非難も覚悟していましたが、地域の人たちは「実家は大丈夫？」と家族を案じてくれました。

最近は自宅にミシンがない家も多く、これまでに作った120枚を超えるマスクが、コロナ感染防止に役立っています。